

早期介入事業【鳥取県三朝町】

=三朝町、眠りで気づく☆こころの健康づくり事業=

(実施期間) 平成 22 年度～

(基金事業メニュー) 強化モデル事業

(実施経費) 平成 23 年度 200 千円

(予算額) 平成 24 年度 182 千円

(実施主体) 鳥取県三朝町

【事業の背景・必要性・目的】

自殺を図った人の 75%に精神疾患があり、その約半数がうつ病だったという報告がある。うつ病の人の 94%に睡眠障害があると報告されていることから、睡眠障害を切り口にハイリスク者を抽出し、訪問対応や医療を適切に結びつけ、自殺を未然に防ぐことを目的とした。

ハイリスク者の抽出には、ピツツバーグ睡眠質問票、抑うつ尺度 (CES-D) を用いた。

【地域の特徴・自殺者数の動向】

□地域環境等

町土の約 9 割を山林原野が占め、狭あいな谷間に沿って集落が点在している。主要産業は観光と農林業で、町内にはラジウム含有量世界屈指の三朝温泉がある。

(出典：三朝町)

□自殺死亡動向

本町における自殺者の年齢層は、思春期・働き盛り・高齢者と幅広く各世代に渡っているが、特に働き盛り・高齢者が多い傾向にある。

【事業目標 事業内容】

平成 23 年 1 月に全町民を対象にした睡眠講演会を開催し、早期介入事業の説明も併せて実施した。平成 23 年度は対象集落を選定し、講演会及び睡眠に関する聞き取り調査を実施した。その後、睡眠調査結果説明およびハイリスク者訪問を実施した。

当初、県と共同したモデル事業として実施し、その後平成 24 年度からは町独自の事業として展開し、対象を拡大して実施している。また、事業を効果的、効率的に実施するため、パソコンを会場へ持参し、質問票の情報をその場で入力し、結果をすぐに住民へ説明できるように工夫した。

なお、当事業を実施していく前に、うつ病が疑われたときに早急に医療に結びつけられるように町内医療機関や中部医師会、当町がある県中部圏域の精神科医療機関に対しての協力依頼を行った。

【事業実施にあたっての運営体制】

平成 22 年度～平成 23 年度：町と県総合事務所福祉保健局が共同で、医療機関への協力依頼、聞き取り調査を実施。精神保健福祉センターは共催で、講演会講師を担当。データ処理は、県総合事務所福祉保健局と精神保健福祉センターが対応、ハイリスク者への訪問対応は町が実施した。住民への周知は集落役員(区長、老人クラブ会長)に協力を依頼した。

平成 24 年度以降

: 全般的に町が実施している。必要に応じ、県福祉保健局及び精神保健福祉センターの協力をあおいでいる。

【事業成果、その他特筆すべき点】

成果としては、ハイリスク者を把握でき、訪問対応することが出来た。また、対象集落の役員の方、町民、関係機関、さらに職場内において、自殺予防対策は大事なこと、身近なことという認識が深まり、実施状況を町報等で PR することで、より多くの町民に知っていただくことができた。

これまで、実施してきた保健事業と併せて実施することで、効率的かつ効果的に事業実施できている。

【参考資料】

〈調査結果説明時の様子〉



〈これまでの実施実績〉

	集落	調査実施人数
平成 22 年度	3	109 人
平成 23 年度	1	17 人
平成 24 年度	12	115 人
合計	16	241 人

(問合せ先) 鳥取県三朝町健康福祉課

TEL:0858-43-3520

E-mail: m-yasuda@town.misasa.tottori.jp

URL : <http://www.town.misasa.tottori.jp/315/319/325/>